様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 ２９ 日現在

機関番号：２４５０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０３０２

研究課題名（和文）ラフカディオ・ハーンの＜トランスナショナル＞アメリカ：報道・翻訳・創作

研究課題名（英文）Lafcadio Hearn's "trans-national" America: Journalism, Translation and Creative Writing

研究代表者
難波江　仁美（Nabae, Hitomi）

神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：３０２４４６７７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ラフカディオ・ハーンの「トランスナショナル」な語りの方法の特徴を、1)翻訳　2)報道、 3)創作の三点から分析した。ジャパノロジストとして評価されてきたハーンを、アメリカ･マルチニーク･日本を遍歴した自称「文明化した遊牧民」作家として捉えなおし、文化言語が混淆し「クレオール化」（ハーンの造語）する時代における文学・語りの先駆者として再評価した。
研究の成果は、_The Spirit of No Place: Reportage, Translation and Re-told Stories in Lafcadio Hearn_（神戸市外大論叢・単著）としてまとめた。

研究成果の概要（英文）：This research explored the "transnational" aspect in Lafcadio Hearn's works in three aspects: 1) journalism, 2)translation, and 3) creative writing. Wherever he went, America, Martinique, or Japan, he was interested in different lifestyles and traditions, not to mention old ghostly stories, and documented them. The "ghostly" element, as I argue, functions as a means to represent a "transnational" aspect of human existence throughout his writings. It is used to project the reality of globalizing modernity that he witnessed. Hearn, therefore, must be acknowledged as a precursor of "world literature," and not only as a Japanologist, who sought for a new kind of narrative that can be shared in the changing world of modernity.
Thanks to the Kaken funding, my research culminated in a monograph, _The Spirit of No Place: Reportage, Translation and Re-told Stories in Lafcadio Hearn_(Kobe Gaidaironso, 2014, pp.230).

研究分野：比較文学

キーワード：ハーン　女性　マルチカルチュラリズム　アメリカ　クレオール　翻訳

１．研究開始当初の背景

(1)　日本におけるラフカディオ・ハーン（小泉八雲；1850～1904）研究の歴史は長く、日本論や物語の翻訳はいうまでもなく、明治文学との比較研究（平川祐弘）、民族学的視点からの研究（小泉凡）、民俗学的視点からハーンと柳田国男を結びつける研究（大泉凡、平川祐弘、牧野洋子、大塚英志）など快挙にいとまがない。2000 年に出版された『小泉八雲辞典』（平川祐弘監修）はギリシャに始まりアイルランド、フランス、アメリカ、マルティニーク、日本と移動し執筆したハーンの全貌を明らかにしようとした視野の広い日本のハーン研究における記念碑的な出版となった。

(2)　一方アメリカでは、ハーンは日本文学研究者には必読書となり、文化人類学や民俗学的な研究分野ではハーンのニューオリンズ時代 (1878－1888) やマルティニーク時代（1888-1889）の記述が貴重な資料とされてきた。今世紀に入り、*The Great Wave* (2004) の中でハーンを日米文化交流史の要として論じたクリストファー・ベンフィが編集したハーン選集(2009)が、アメリカ文学を網羅するシリーズアメリカン・ライブラリーに加えられ、またシェリー・フィシュキン編の *Twain Anthology*（2010）にはハーンのアメリカ時代の書評が採択され、ハーンはジャパノロジストだけでなく、アメリカ文学の中でも文学者・批評家として位置づけられるようになった。

(3)　そうした過去の成果によって、アメリカあるいは日本における評価という限られた視座ではなく、異国間や異文化間を移動し、複眼的な視野で執筆したハーンの「トランスナショナル」な側面を検証する材料が十分に整ってきた。本研究は、過去の研究をふまえ、人種、言語、国家が接触し変容していった十九世紀末を新たな「トランスナショナル」という視点から捉えたハーンの特徴を検証するものである。

２．研究の目的

(1)　本研究では、世界の植民地化・グローバル化が進む十九世紀末にアメリカ、マルティニーク、日本と移動して執筆したアイルランド人の父とギリシャ人の母を持つ混血ラフカディオ・ハーンの業績を、「翻訳」「報道」「創作」の三つの観点から整理考察し、日本文化や昔話の紹介者として知られているハーンを、マルチカルチュラル／マルチリンガルな時代という視座において捉えなおし、時代の先駆けとしての新しい語りを模索した世界文学的作家として再評価することを目的とする。

(2)　アメリカ時代、ハーンは新聞記者であり、またフランスの小説短編や新聞記事を翻訳もした。彼はとりわけ言葉にならない異質な体験を伝える言葉(表現)を工夫し、事実を伝える新聞記事であっても、読者の共感を呼ぶよう物語化した。センセーショナルに「翻訳」したとも言えるが、その方法は後に「創作」を手がける際にも有効になってくる。日本時代に英文で書いた日本紹介のエッセイや昔話の「翻訳」に、アメリカ時代の「報道」「翻訳」「創作」との共通点を探り、ハーンの「トランスナショナル」性を広い視座から記述する。

(3)　また、日本で英語（英文学）教師として尊敬されたハーンは、明治開国後間もない日本の若い学生に西洋の文化・文学を比較文化・比較文学的視点から講じた。このように西洋と東洋（日本）の橋渡し的役割（すなわち翻訳者・通訳者）を果たしたといえるハーンだが、彼の業績は異なる文化や言語の特徴を記述し、その違いを示すだけでなく、植民地化・グローバル化する時代、移動の時代、すなわちあらゆるものが混じり合い複雑化する時代における新しい文学や語りの可能性を示唆する。また終わりのない人種問題をかかえるアメリカと軍事国家へと変貌していく日本のどちらをも目の当たりにして「報道」「翻訳」「創作」を続けたハーンのリアリズム的視

点は、いま文学や語りに何ができるかという今日的問題に光をあてるものと考える。

３．研究の方法

(1)　本研究ではまずハーンのアメリカ時代に焦点を当て、その報道記事や翻訳の語りを分析し、多民族国家アメリカの読者に向けて書かれた彼の語りのトランスナショナルな創造的特徴を明らかにすることを試みた。さらに日本での作品に、そうしたトランスナショナルな要素がどのように表れているのかを検討し、アメリカ作品と日本作品とを比較しながらハーンのトランスナショナルな語りの特徴を検討した。

(2)　研究期間3年間のうち最初の2年間は基本資料の精読と検証、その特徴の記述に費やした。1000を超えるハーンのアメリカ時代の新聞記事や書評から重要なものを抽出する作業により、ハーンの嗜好だけでなく、当時の時代背景も明らかにすることを目指した。また、移民による都市犯罪事件、黒人やクレオールの生活、異国の幽霊談（翻訳）など、繰り返されるトピックから彼の語りの型（特徴）の特定を試みた。難波江（本研究代表者）は、これまでもハーンの「ゴーストリー」な語り（幽霊談）に注目してきたが、その「ゴーストリー」な語りにハーンにおけるトランスナショナルな要素を読み取り、異質なものとしての区別を越える方法として機能することを具体的に実証した。彼のアメリカ時代の「イエロー・ジャーナリズム」的新聞記事とマルティニークや日本時代の「幽霊談」の語りにおける共通点を見いだし、ハーンの「ゴーストリー」な語りをトランスナショナルな語りの核として位置づけた。

(3)　一九世紀のアメリカと日本の文化的比較検討を行うために、サンフランシスコ州立大学のハッケンバーグ氏と共同研究を行った。氏は、十九世紀アメリカだけでなく、同時代のイギリス・フランスのポピュラー・カルチャーや大衆小説に詳しい。ハーンの語りの時代性と独自性、十九世紀アメリカの一般読者（多民族）の影響力等について議論をすることができた。ハーンとアメリカ文学との関わりから、報道、翻訳、創作の三点の特徴を考えた。

(4)　研究成果は広く日米の研究者と共有できるように研究発表及び研究会を計画した。一般のハーン（小泉八雲）読者と共有できるように朗読会等の企画も考えた。研究成果は同時に今日における物語論、翻訳、語り理論にも資することになると考える。

４．研究成果

(1)　本研究３年間で、インディアナ大学、スタンフォード大学、カリフォルニア州立大学バークリー等での資料収集を行い、アメリカ・マルチニーク・日本におけるハーン作品全貌を把握し、そこに一貫する特徴を記述することに努めた。日本紹介者（ジャーナリスト、翻訳者）として知られているハーンであるが、日本の昔話の文字通りの「翻訳」と思われていた作品が実は彼の「創作」であったとする興味深い最近の批評があるように、ハーンにおいて「報道」「翻訳」「創作」は密接に関係し合うものであることを明らかにすることができた。そしてそこに彼のトランスナショナルな語りの特異性がある。

(2)　これまでのハーン研究に欠如していた点を補う研究であること自体が本研究において独創的であるが、外国文学研究者の利点を活かした原文テキストの精読は、無意識に見落としていた語りの創造性とその効用についての発見につながった。また文学理論に精通したアメリカ人共同研究者ハッケンバーグ氏の協力によってさらにそれを理論化して検討することができた。結果、①アメリカ文学との関わりの中でのハーンを位置づけ、②異文化を伝達するハーンの「翻訳」における創造性と文学性を読み解き、③トランスナショナ

ルなハーンの語りにおける現代性を検討することができた。

(3)　今回の研究は、神戸市外国語大学研究叢書、*The Spirit of No Place: Reportage, Translation and Re-told Stories in Lafcadio Hearn*. (Kobeshi Gaikokugodaigaku Kenkyu Sousho. 2014, pp. 230)にまとめることができた。本書（単著）では、ハーンのアメリカ時代（シンシナティおよびニュー・オリンズ）、マルティニーク時代、日本時代のそれぞれの特徴を明らかにし、自らを“civilized nomad”と称したハーンの移動文学としての作品の特徴を記述した。ハーンの物語を、故郷を離れ異国（異言語空間）に住むことを余儀なくされた十九世紀末以降の植民地化・グローバル化する時代の人々が語り継いでいく新しい民話として論じ、その物語の核にハーンの幽霊談「ゴーストリー」な物語があることを指摘した。

(4)　ここ数年、世界のグローバル化に伴い様々な問題（民族、宗教、戦争、国家）が表面化してきている。文学においても国家や言語のマルチな共存を視野に入れた越境性、世界文学といった概念が論じられるようになったのも、文学の持つ力による社会貢献の意義が求められているからであろう。ハーンは複数言語、文化、民族、国家を移動する新しい「ノマド」に向け、共通の心の基盤となる物語を発信し続けた先駆者として注目されるべき作家（同時にジャーナリスト・翻訳家・批評家・教師とマルチな側面を持つ）である。この点については、まだハーン研究には今後も課題が残されている。

(5)　学生へのフィードバック、および地域貢献を目的として、海外からの講演者を招聘し講演会を主催した。世界文学的な視野、および様々な芸術表現を通して文学、文化、社会を複眼的視点から考える機会を提供し得たと考える。初年度は、共同研究者サンフランシスコ私立大学准教授のハッケンバーグ氏（十九世紀雑誌文化、連載小説）、２年目には、インディアナ大学准教授のティエルニー氏（日本の帝国主義と十九世紀文学）、北京在住インディペンデント・スカラーのクッチオ氏（モダニズムと日本の版画）滋賀在住の画家ブライアン氏（絵画と視点）、三年目にはノートルダム大学名誉教授のキンジー氏(絵画と政治)を招聘し講演をお願いした。どの講演会でも学生との質疑応答は活発に行われ、意義ある講演会を主催することができた。海外からの講演者との交流は学生にとって発見が多く、貴重な体験であったという高い評価を得た。

(6)　本研究を通して、旅と異文化体験そのものが人生であったハーンの語りの変遷をアメリカ時代に検証することで、グローバルな時代における語りの必要性を再認識することができた。特にアメリカの大学アーカイブにおける資料収集・研究、および現地の研究者との交流を行うことができたのは有意義であった。本研究は、単著の論叢として研究内容をまとめることはできたが、トランスナショナルな視点から見たハーン像の全貌を捉えるにはまだ不十分と考える。近年注目されている世界文学的な視座からさらに今後も研究を進めたい。文学や語りの重要性はますますグローバル化する今の時代において重要であり、世界文学における先駆者的存在としてハーンは今後注目されると考えるからである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　１　件）

① Nabae, Hitomi. “Lafcadio Hearn's ‘Ghostly’ Narrative: Translation and Re-telling in ‘Yuki-Onna.’” 神戸市外国語大学研究会『神戸外大論叢』、査読無、第 63 巻第１～５号、2012、pp. 27-38. Jairo:http://jairo.nii.ac.jp/0273/00000903/en
当論文は『英語学論説資料』47 号第 5 分

冊に採択所収された。

〔学会発表〕（計　9　件）

①難波江仁美「フラッパーは夢を見る？--*Twilight Sleep*（1927）におけるモダニティ」「ウォートンミニシンポ」関西アメリカ文学会 7 月例会 2012 年 7 月 7 日神戸大学。

② NABAE, Hitomi. "Use of Dramatization in a University Reading Class: the Significance of Re-telling a Story." World Story-telling Literary Texts in ELT. Unity, Kobe, 2 Dec.2012.

③ NABAE, Hitomi. "Lafcadio Hearn's Oceanic Catastrophe Stories: Cross-Cultural Allegories in *Chita* (1889) and "A Living God" (1897). American Literature Association 24th Annual Conference, Boston, 23-26 May 2013.

④ NABAE, Hitomi. "Lafcadio Hearn's Oceanic Catastrophe Stories: Cross-cultural Allegories in *Chita* (1889) and "A Living God" (1897). "Panel: Lafcadio Hearn; East and West." Oceans Apart: In Search of New Wor(l)ds. 6th World Congress of the International American Studies Association, Szczecin, Poland, 5 Aug. 2013.（パネル・オーガナイザー及び司会）

⑤ 難波江仁美.「ラフカディオ・ハーンの幽霊談～進化する魂の物語～」日本*比較文学会*第 49 回*関西*大会シンポジウム「モラエスとハーン～生へのまなざし」 ラフカディオ・ハーンの幽霊談～進化する魂の物語～、日本比較文学会関西支部、徳島大学、2013 年 11 月 16 日。（招待発表）

⑥ 難波江仁美.「耳をすます子ども：*What Maisie Knew*（1897）」シンポジウム「ジェイムズ文学におけるこどものイメージ」九州アメリカ文学会第 60 回大会、西南学院大学、2014 年 5 月 11 日。（招待発表）

⑦ NABAE, Hitomi. "Clicking the 'Real Thing': What Maisie 'Heard' in *What Maisie Knew.*" The Real Thing; Henry James and the Material World, Henry James International Conference. Aberdeen University, Aberdeen, 18 July 2014.

⑧NABAE, Hitomi. "Japanese Contributions, 2011-2012." *American Literary Scholarship.* Eds. Gary Scharnhorst, David J. Nordloh. Duke U Press, Vol. 2012, No.1, 2014 http://als.dukejournals.org/content/current（日本における米文学研究書評総括）

⑨ NABAE, Hitomi. "Creaolization In Lafcadio Hearn's New Orleans and Martinique Writings." *Review of International American Studies* (Web). 印刷中。査読有。 http://www.iasaweb.org/content/rias-journal

〔図書〕（計　　3 件）

① Nabae, Hitomi, *The Spirit of No Place: Reportage, Translation and Re-told Stories in Lafcadio Hearn*. Kobeshi Gaikokugodaigaku Kenkyu Sousho. 55. Kobe: Kobe City University of Foreign Studies. 2014. 230. 単著.

② 難波江仁美.「"A Litterbug"の詩学：ミナ・ロイのモダニズム」『越境する女性詩人たち―モダニズム再考』外国学研究88号（2014）63-80.

③ 別府惠子・難波江仁美訳、『心ひろき友人

たちへ：四人の女性に宛てたヘンリー・ジェイムズの手紙』スーザン・E・ガンター編、大阪教育図書　2014、500.

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
難波江　仁美（Nabae, Hitomi）
神戸市外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：30244677

(2)研究分担者
該当なし　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
ハッケンバーグ、サラ（HACKENBERG, Sara）
サンフランシスコ市立大学文学部准教授

研究者番号：　該当なし